

フチャギ由来

古堅セツ (1912・M45) 字都屋 (0:47)

其^{うんま}処^{やー}ぬ^{たび}家^{だんな}ぬ、旅^{だんな}どうし^{だんな}え^{だんな}ー^{だんな}さに^{だんな}や^{だんな}ー^{だんな}う^{だんな}ぬ^{だんな}旦那^{だんな}さん
が。あん^{だんな}さ^{だんな}ぐ^{だんな}と^{だんな}う^{だんな}な^{だんな}ー、な^{だんな}ー^{だんな}海^{だんな}ん^{だんな}人^{だんな}や^{だんな}み^{だんな}し^{だんな}え^{だんな}ー^{だんな}て^{だんな}ー^{だんな}ん
や^{だんな}ー、^{たし}確^{たし}かに。

あん^{だんな}さ^{だんな}ぐ^{だんな}と^{だんな}う^{だんな}な^{だんな}ー、な^{だんな}ー^{たいふう}台^{たいふう}風^{たいふう}さ^{たいふう}ぐ^{たいふう}と^{たいふう}う^{たいふう}な^{たいふう}、て^{たいふう}い^{たいふう}ー^{たいふう}ち
ん^{たいふう}帰^{たいふう}て^{たいふう}い^{たいふう}ん^{たいふう}め^{たいふう}ん^{たいふう}そ^{たいふう}ー^{たいふう}ら^{たいふう}ん^{たいふう}な^{たいふう}た^{たいふう}ぐ^{たいふう}と^{たいふう}う^{たいふう}。珍^{ひるま}さ^{ひるま}、な^まー^ま亡^ま
し^まる^まう^まさ^まや^まー^まん^まち^まな^まー、^{なげ}長^{なげ}え^{なげ}帰^{なげ}て^{なげ}い^{なげ}め^{なげ}ん^{なげ}そ^{なげ}ー^{なげ}ら^{なげ}ん^{なげ}た^{なげ}
ぐ^{なげ}と^{なげ}う^{なげ}な^{なげ}ー、い^{すーこー}え^{すーこー}り^{すーこー}ん^{すーこー}焼^{すーこー}香^{すーこー}ん^{すーこー}で^{すーこー}ー^{すーこー}う^{すーこー}さ^{すーこー}ぎ^{すーこー}ー^{すーこー}ん^{すーこー}ち^{すーこー}、う^{すーこー}
り^{すーこー}し^{すーこー}え^{すーこー}ー^{すーこー}ん^{すーこー}て^{すーこー}ー、七^{なんか}日^{なんか}ん^{なんか}で^{なんか}ー^{なんか}う^{なんか}さ^{なんか}ぎ^{なんか}ー^{なんか}ん^{なんか}ち^{なんか}。

あん^{だんな}さ^{だんな}ー^{だんな}に^{だんな}、さ^{だんな}ぐ^{だんな}と^{だんな}う^{だんな}餅^{むち}い^{ちゆく}作^すて^すい^すな^すー^す直^すぐ^す、う^す
ん^すぐ^すと^すう^すー^す七^{なんか}日^{なんか}う^{なんか}さ^{なんか}ぎ^{なんか}ー^{なんか}ん^{なんか}ち^{なんか}そ^{なんか}ー^{なんか}ぬ^{なんか}場^{なんか}に^{なんか}、な^{なんか}ー^{なんか}う^{なんか}ぬ^{なんか}
ほ^{ほん}ん^{にん}け^ーい^け来^けぐ^けと^けう^けよ^け。な^けー^けあ^けり^けん^けか^けい^け申^{もう}し^{わけ}訳^{わけ}
ね^{むち}ー^{むち}し^{むち}え^{むち}ー^{むち}や^{むち}ー。あん^{むち}さ^{むち}ー^{むち}な^{むち}か^{むち}い^{むち}、う^{むち}ぬ^{むち}餅^{むち}作^{むち}い^{むち}ぬ^{むち}
し^{むち}る^{むち}む^{むち}ち^{むち}す^{むち}あ^{むち}か^{むち}ま^{むち}ー^{むち}み^{むち}に^{むち}、う^{むち}ぬ^{むち}餅^{むち}ん^{むち}か^{むち}い^{むち}た^{むち}つ^{むち}く^{むち}
わ^{むち}ー^{むち}さ^{むち}ー^{むち}に^{むち}、お^{むち}祝^{むち}い^{むち}ぬ^{むち}フ^{むち}チャ^{むち}ギ^{むち}な^{むち}さ^{むち}ー^{むち}に^{むち}よ^{むち}、う^{むち}り^{むち}な^{むち}た^{むち}
ん^{むち}り^{むち}ち^{むち}。う^{むち}ぬ^{むち}八^{むち}月^{むち}十^{むち}五^{むち}夜^{むち}ぬ^{むち}う^{むち}り^{むち}、う^{むち}ん^{むち}な^{むち}う^{むち}り^{むち}ど^{むち}う^{むち}聞^{むち}
ち^{むち}ゃ^{むち}ん^{むち}で^{むち}話^{むち}。

【共通語訳】

その家の旦那さんが、旅に出たんでしょうね。おそらくその人は漁師だったのでしょね、きっと。

旅に出たあと台風になった。それで、いっこうに帰って来なかった。どうしたのかな、長いこと帰って来なかったの、もう亡くなったのだろうと、法事の準備をしたんでしょうね。

そこで、仏壇にお供えする餅を作っていたら、亡くなったと思っていた旦那さんが帰ってきた。もう旦那さんの法事の準備をしていたなんて気まずいでしょう。それで、直ぐに小豆を煮て、法事用に作っていた白餅に、その小豆をくっつけてお祝いのフチャギ餅にしたんだって。その日が八月十五日だったのか、それから、八月十五夜にはフチャギを作るようになったという、そんな話を聞いたよ。